

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：32102

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K13592

研究課題名（和文）事業承継の後継者である第三者の資源がアントレプレナーシップへ与える影響

研究課題名（英文）Impact of New Resources from Unrelated Person Successor in Business Succession on Entrepreneurship

研究代表者

難波 和秀（NAMBA, KAZUHIDE）

流通経済大学・経済学部・准教授

研究者番号：60835627

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：リサーチクエスチョンの「事業承継後のアントレプレナーシップのプロセスにおいて、第二創業や事業承継後の成長のために、後継者となった社外の第三者が新たに持ち込むどのような資源がどのように作用するのか？」に対して、インタビュー調査などの事例研究の結果、「社外の第三者の多様な実務経験を背景に相互主観（共感）が生まれ、育まれた相互主観（共感）から経営哲学、理念が創出され、創出された非財務経営資源である経営哲学、理念が、先代の経営哲学、理念と融合、バランスをとりながら、経営資源に対しての制御情報として作用する」ということが分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中小企業、同族企業、小規模零細企業などの経営者の高齢化により、事業承継が社会課題となっている。このような社会課題を解決することは、社会的価値の維持・承継、地域雇用の維持などにつながり、社会的意義は大きい。事業承継は伝統を承継するだけでなく、アントレプレナーシップを発揮することで、第二創業、事業承継後の成長、イノベーションを実現する機会となる。本研究は、事業承継後の後継経営者として、近年、増加している社外の第三者を対象とする。本研究によって、社外の第三者への事業承継を成功させるための知識を提供することで、多様な事業承継を促進し、サステナブル社会の実現へ貢献することができる。

研究成果の概要（英文）：Research question “In the process of entrepreneurship after business succession, what kind of resources will be newly brought in by unrelated person who has become a successor and how will they work for the second foundation and growth after business succession?” As a result of case studies such as interview surveys, it was found that “mutual subjectivity (sympathy) was nurtured against the background of various practical experiences of unrelated person outside the company, and management was based on the mutual subjectivity (empathy) that was nurtured. Management philosophy and philosophy are created, and the created management philosophy and philosophy, which are non-financial management resources, act as control information for management resources while merging and balancing with the management philosophy and philosophy of the predecessor.”

研究分野：アントレプレナーシップ

キーワード：アントレプレナーシップ 事業承継 第三者承継 後継経営者 イノベーション

1. 研究開始当初の背景

中小企業、同族企業、小規模零細企業などの経営者の高齢化により、事業承継が社会課題となっている。このような社会課題を解決することは、社会的価値の維持・承継、地域雇用の維持などにつながり、社会的意義は大きい。事業承継は伝統を承継するだけでなく、アントレプレナーシップを発揮することで、第二創業、事業承継後の成長、イノベーションを実現する機会となる。本研究は、事業承継後の後継経営者として、近年、増加している社外の第三者を対象とする。本研究によって、社外の第三者への事業承継を成功させるための知識を提供することで、多様な事業承継を促進し、サステナブル社会の実現へ貢献することができる。

2. 研究の目的

本研究は、事業承継後のアントレプレナーシップのプロセスにおいて、第二創業や事業承継後の成長のために、後継経営者となった社外の第三者が新たに持ち込むどのような資源がどのように作用するかを明らかにする。リサーチクエスチョンである「事業承継後のアントレプレナーシップのプロセスにおいて、第二創業や事業承継後の成長のために、後継者となった社外の第三者が新たに持ち込むどのような資源がどのように作用するのか？」を明らかにする。

3. 研究の方法

事業承継後のアントレプレナーシップ(企業家活動)のプロセスにおいて、第二創業や事業承継後の成長に関して、アントレプレナーシップ研究と事業承継研究の両面の視点から文献研究を行う。得られた文献研究結果を用いて、後継経営者となった第三者の能力、資源に関するアンケート調査項目とインタビュー調査項目の最適化を行う。

アンケート調査とインタビュー調査を用いて、事例研究を行う。得られた事例に関して、先行研究も考慮した考察を行う。考察の結果を用いて、リサーチクエスチョンに関する内容を明らかにする。

4. 研究成果

【文献研究】

事業承継後のアントレプレナーシップ(企業家活動)のプロセスにおいて、第二創業や事業承継後の成長に関して、アントレプレナーシップ研究と事業承継研究の両面の視点から文献レビューを行った。事業承継の後継者となった社外の第三者を対象として、事業承継後のアントレプレナーシップ(企業家活動)のプロセスにおいて、「事業機会の認識と評価」、「先代経営者への資源依存」、「第三者の後継経営者への資源依存」、「企業家活動プロセス全体」の各プロセスに関連する文献調査、アンケート調査を実施した。各調査結果を経営学の枠組みで分析し、社外の第三者が発揮できる能力、資源との関係性を考察した。更に、日本固有の独自性と非同族後継者の独自性に関する考察、分類を行い、PICMET2022において国際学会発表を行った。考察の結果を用いて、後継経営者となった第三者の能力、資源に関するアンケート調査項目とインタビュー調査項目の最適化を行った。

【事例研究】

アンケート調査とインタビュー調査によって、事例研究を行った。事例研究の結果、第三者の後継者のどのような資源がどのように作用するかに関する考察結果を図に示す。図には、第三者の承継者を対象とした事業承継の企業家活動プロセスの分析枠組み、跳ぶ仮説に基づく経営哲学、理念の醸成、“六番目の経営資源”としての共感がそれぞれ示されている。それぞれの相互の関係性として事例の具体的な内容が記載されている。

跳ぶ仮説に基づく経営哲学、理念の醸成に関して、社外の第三者の多様な実務経営を背景に相互主観(共感)が育まれ、育まれた相互主観(共感)から経営哲学、理念が創出され、創出された非財務経営資源である経営哲学、理念が、先代の経営哲学、理念と融合・バランスをとりながら、経営資源に対しての制御情報として作用すると考えられる。

事例の対象者はミドル世代であることから、ミドル世代の多様な実務経験、社会人経験と専門的な実務経験、社会人経験が、跳ぶ仮説の下地を作り、経営哲学、理念の醸成を促進させたと考えられる。ミドル世代が本業以外で活動することは、エフェクチュエーションの許容可能な損失の原則として機能する可能性がある。

事例研究の結果、リサーチクエスチョンに対して、「社外の第三者の多様な実務経験を背景に相互主観(共感)が育まれ、育まれた相互主観(共感)から経営哲学、理念が創出され、創出された非財務経営資源である経営哲学、理念が、先代の経営哲学、理念と融合、バランスをとりながら、経営資源に対しての制御情報として作用する」ということが分かった。得られた結果を査

読論文として発表した。

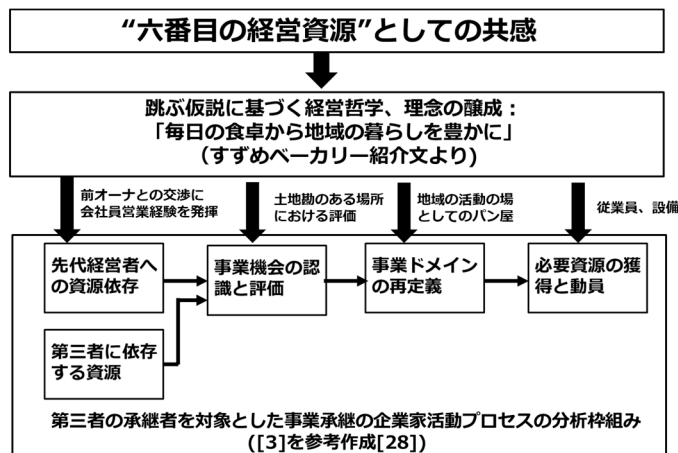


図 第三者の後継者のどのような資源がどのように作用するかに関する考察結果[1]

【結論】

リサーチクエスチョンの「事業承継後のアントレプレナーシップのプロセスにおいて、第二創業や事業承継後の成長のために、後継者となった社外の第三者が新たに持ち込むどのような資源がどのように作用するのか？」に対して、インタビュー調査などの事例研究の結果、「社外の第三者の多様な実務経験を背景に相互主観（共感）が生まれ、育まれた相互主観（共感）から経営哲学、理念が創出され、創出された非財務経営資源である経営哲学、理念が、先代の経営哲学、理念と融合、バランスをとりながら、経営資源に対しての制御情報として作用する」ということが分かった。

参考文献

[1] 難波和秀, 「サステナブル社会におけるアントレプレナーシップを発揮した第三者承継 多様な実務経験を背景に育まれた共感を経営資源として - 」, 日本産業経済研究, 第 23 号, 2023

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 難波和秀	4. 巻 第23号
2. 論文標題 サステナブル社会におけるアントレプレナーシップを発揮した第三者承継 多様な実務経験を背景に育まれた共感を経営資源として -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 産業経済研究	6. 最初と最後の頁 74-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 難波和秀	4. 巻 第22号
2. 論文標題 アントレプレナーの副業としての起業意欲 エフェクチュエーションの許容可能な損失の原則として -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 産業経済研究	6. 最初と最後の頁 61-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 難波和秀	4. 巻 Vol127, No2
2. 論文標題 事業承継の特徴が「両利きの経営」へ与える影響に関する考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本生産管理学会論文誌	6. 最初と最後の頁 159-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 難波和秀
2. 発表標題 サステナブル社会における事業承継の新たな可能性 - 伝統的承継を突破する要因について -
3. 学会等名 日本産業経済学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 難波和秀
2. 発表標題 事業承継とアントレプレナーシップに関する考察
3. 学会等名 日本産業経済学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 難波和秀
2. 発表標題 アントレプレナーとリスクに関する考察
3. 学会等名 日本生産管理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 難波和秀
2. 発表標題 スモールM&Aを通じた事業承継の認知度に関する考察
3. 学会等名 日本生産管理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 難波和秀
2. 発表標題 第三者承継のための社会人の学び直し（リカレント教育）に関する考察
3. 学会等名 日本生産管理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuhide Namba
2. 発表標題 Impact of New Resources from Unrelated Person on the Entrepreneur Activity Process in Business Succession in Japan
3. 学会等名 PICMET 22 (Portland International Center for Management of Engineering and Technology) Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 難波和秀
2. 発表標題 事業承継を機会とした「両利きの経営」に関する考察
3. 学会等名 日本生産管理学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関